

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立蒲刈中学校  
(蒲刈中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+5.0	+5.0
令和8年度	-	-
令和7年度	-1.3	-8.3
令和6年度	+5.9	-12.5
令和5年度	+2.2	-7.0
令和4年度	+4.0	-2.4

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p><b>国語</b></p> <p>言葉の特徴や使い方</p> <p>読むこと</p> <p>話すこと・聞くこと</p> <p>書くこと</p> <p>本校 53 % 全国 54.3 % 県 55 %</p>	<p><b>重点課題</b></p> <p>◎文章の構成や展開について根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題がある。【読むこと】 (「読むこと」の領域別正答率 60.0%) (全国平均との差-2.3pt) (設問3 四正答率 0.0%) (全国平均との差-17.1pt)</p> <p>◇文章全体の構成や要旨を捉え、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題がある。【読むこと】</p>
	<p><b>改善の方策</b></p> <p>◎文章において、複数の情報がどのような展開になっているか、効果がどのように表されているか、根拠を明確にして書く学習活動を増やしていく。</p> <p>◇複数の資料や文章間において「共通の関係」「相違の関係」「順序の関係」「考えと理由や事例の関係」「全体と中心の関係」「原因と結果の関係」といった多様な視点を持たせ、根拠を明確にして自分の考えを書く指導を行う。</p> <p>◇読書習慣を身に付けるとともに、複数の資料や文章における多様な関係性を見出し、書き手の考えを自分なりにまとめ、表現し合う対話的な学習に取り組む。</p>
	<p><b>検証</b></p> <p>◎◇定期試験に全国学力・学習状況調査[設問3 四]の類似問題 (第3学年:11月、第1・2学年:12月) 目標 60%→結果 64.2%</p>
<p><b>数学</b></p> <p>数と式</p> <p>データの活用</p> <p>図形</p> <p>関数</p> <p>本校 40 % 全国 48.3 % 県 47 %</p>	<p><b>重点課題</b></p> <p>◎数量を文字を用いた式で表すことに課題がある。【数と式】 (「数と式」の領域別平均正答率 28.0%) (全国平均との差-15.5pt) (設問2の正答率 0.0%) (全国平均との差-51.9pt)</p> <p>◇共通する単位分数を見出し、その単位分数のいくつかを表したり、割合を含む数量を式で表したりすることに課題がある。【数と式】</p>
	<p><b>改善の方策</b></p> <p>◎問題場面から基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるよう、図などを用いて数量の関係を捉えたり、具体的な数で計算したことをもとに文字式で表したりする活動を行う。また、表した文字式が正しいかどうかを文字に具体的な数値を代入して確認する活動を取り入れ、考えを言語化することができるよう取り組んでいく。</p> <p>◇数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、式だけでなく図や言葉を使って表現する学習活動を行う。また、表した式が正しいかどうかを確かめることで、自分の考えを言語化することができるよう取り組んでいく。</p>
	<p><b>検証</b></p> <p>◎◇定期試験に全国学力・学習状況調査[設問2]の類似問題 (第3学年:11月、第1・2学年:12月) 目標 60%→結果 68.8%</p>

【来年度に向けて】

令和6年度から継続してきた「知識を関連付けて理解すること」への取組により、漢字の部首注目や関数の表・式・グラフの整理といった基礎的な知識の定着には一定の成果が見られた。しかし、令和7年度の調査結果では、国語科の「文章の構成や展開を踏まえた根拠のある記述」や、数学科の「数量関係を的確に捉えた文字式での表現」において依然として大きな課題が残されている。

来年度は、これまでの「知識の関連付け」を一步進め、「根拠に基づき論理的に説明・言語化する力」の育成を全校の柱とし、国語科において多様な視点(共通・相違・因果関係等)から文章を分析し、自分の考えを再構成して書く学習活動を充実させる。数学科では、図や言葉を用いて基準量・比較量・割合の関係を整理し、文字式を立てるプロセスを言語化する活動を強化する。

全教職員でこれらの課題を共有し、生徒が自分の思考を確かな根拠を持って表現できるよう、教育活動全体で改善を図っていく。